

平成23年度 水道事業会計の決算状況

私たちの日常生活において、水は欠かせないものであり、水道は生活を支えるライフラインの1つです。

市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを実施しています。

今号では、平成23年度水道事業会計の決算状況をお知らせします。

水道事業会計の概要

水道事業は、地方公営企業法に基づき地方自治体が経営する企業として運営されています。

そして、企業の経営成績、財政状態を明らかにするため、会計制度は企業会計方式を採っているほか、事業に必要な経費は経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てるという独立採算制を原則に経営を行っています。

このため、事業の運営に当たっては、本来の目的である公共の福祉を増進するとともに、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。

現在はもちろん将来に持続可能な水道とするためには、事業運営基盤の強化を図り、安全・安心な給水を確保する必要があります。

給水の状況

給水人口	50,791人
給水戸数	22,244戸
年間給水量	4,133,118m ³ (1日1人当たり平均222ℓ)
平均配水量 (1日当たり)	13,226m ³

収入と支出の概要

◎収益的収支

収益的収支とは、水をつくりご家庭にお届けするための収支を表したものです。

収入合計は、予算の9億1千536万円に対し決算は9億1千880万円で34万円の増となりました。

一方、支出合計は、予算の8億4千76万円の減となりました。

この結果、収支決算は、1億780万円の黒字となりました。

この黒字額については、国などからの借入金今後の元金償還に備えるため減債積立金に2千780万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に8千万円を積み立てする予定です。

◎資本的収支

資本的収支とは、浄水施設や配水池や配水管の整備などに使用するための収支を表したものです。

収入合計は、予算の1億2千148万円に対し決算は1億2千154万円で6万円の増となりました。

一方、支出合計は、予算の5億2千77万円の減となりました。

この結果、収支決算は、3億9千834万円の財源不足となりました。

この不足額については、収益的支出のうち現金の支出を必要としない費用の減価償却費など内部留保している損益勘定留保資金などで補いました。

項目	金額
収益的収入	9億1,880万円
営業収益	9億1,859万円
(内給水収益)	8億7,452万円
営業外収益	16万円
特別利益	5万円
収益的支出	8億1,100万円
営業費用	6億9,608万円
営業外費用	1億9,997万円
特別損失	495万円
純利益	1億780万円

項目	金額
資本的収入	1億2,154万円
企業債	1億1,950万円
負担金	204万円
資本的支出	5億1,988万円
建設改良費	2億5,860万円
企業債償還金	2億6,128万円
不足額	3億9,834万円